

## 令和元年産 紀南の梅産地情報

2019/07/22

### 「生産概況」

1. 今年の梅の開花は、主力の南高の満開期が2月14日、開花終期が2月25日、開花期間が24日間とほぼ平年並みの開花状況となった。小梅等授粉樹との開花は若干ずれたものの、収穫前の定点着果量調査では着果量は前年並みで、平年よりやや多くなった。



出荷は小梅で5月12日、古城は5月15日、主力の南高は5月27日からそれぞれ始まったが、4月の平年を下回る気温と降雨量により小玉傾向となった。その後も降雨量は少なく、病虫害の発生は少なかったものの、実肥りは鈍化し出荷量は少なくなった。

2. 生産量は、小梅・古城は前年・平年より少なくなった。主力の南高では前年より少なく、平年並みとなった。

7/22日時点（生産見込量：ト）

品 種	元年産	30年産	平 年	前年比	平年比
小 梅	596	1,077	877	55%	68%
古 城	389	705	636	55%	61%
南 高	20,583	25,678	22,553	80%	91%
在来系	365	572	552	64%	66%

### 「安全・安心対策」

J A紀南の安全・安心対策は17年目に入り、全出荷者の生産履歴の安全確認、生産者毎の出荷物サンプル保管、農薬残留分析、GAP（農業生産工程管理）の自主点検を実施した。

### 「産地の課題と方向」

近年予想を上回る気象変動の中で、梅生産・農業経営面においては作柄を安定させることが最重点課題となる。山畑等不安定園地での受粉対策や品種の見直し、老木園の改植を積極的に進めることが重要である。